SDGs実現へ研究成果共有

一般・高校生に講義

岩手大・次世代アグリイノベーションセンター セミナー始める

SDGs（持続可能な開発計画）実現への貢献を目指す岩手大・次世代アグリイノベーション研究センター（下野裕之センター長）は2日、同センターの研究成果を地域の人たちと共有する「一般・高校生向けセミナー」を開講した。第1回は、センター長の下野農学部教授（48）がSDGsにおける農学の役割について分かりやすく解説し、参加者は熱心に耳を傾けた。

第1回セミナーは同大農学部で開かれ、高校生を含む一般市民25人が参加した。

下野教授は「次世代アグリイノベーション研究センターが目指すもの　人新世（じんしんせい）の農学とSDGs」の演題で講義。人類の繁栄が地球規模の環境変化をもたらしている「人新世」の時代において、持続可能な社会を構築することの大切さや農業との関係について解説した。

農業は、私たちの生命を維持するエネルギーの源。食料生産を担う産業であるとともに、生物多様性の維持など環境問題にも深く関わっている。「時代が変わる中、社会の方向性を決める中、何が大切か農学からしか見えてこない視点がある」と強調した。

盛岡二高3年の鹿野真那実さんは「SDGsは大学で学んでみたい研究テーマなので、興味があった。農業は食のイメージが強かったが、環境とも深く関わり、私たちにとって縁の下の力持ちのような存在だと感じた」と関心を高めていた。

次回は27日午後5時から、農学部の山田美和准教授が「微生物の力をかりて、世界が喜ぶ環境に優しい技術を創ろう～捨てられるものを原料としたバイオプラスチックの合成と分解研究についてご紹介～」の演題で解説する。

同セミナーは、センター所属の教員が講師を務め、月に1回程度開催する。事前申し込み制で、定員は各50人。参加無料。会場は同大農学部7番講義室（総合教育研究棟生命系）。

申し込み・問い合わせは、メールaic@iwate-u.ac.jp、電話019―621―6851。

岩手大でスタートした次世代アグリイノベーション研究センター「一般・高校生向けセミナー」

※盛岡タイムス
令和4年6月7日付/6面
※この記事は
盛岡タイムス社の
許諾を得て転載しています。